



中川 統雄 Norio Nakagawa

東京芸術大学音楽学部作曲科卒業。同大学院修士課程修了。
日本音楽コンクール第2位及びE.ナカミチ賞受賞。『PSYCHOMANIA』がユネスコI.R.C.
にて1996年度の日本代表曲に選出され世界各国の国営放送局にて放送される。
商業音楽でも活動し最近では浜崎あゆみのアルバム『MY STORY』でアレンジに参加している。
現在、奈良女子大学講師。



レインダート・ファン・ヴァウデンベルグ Rijndert van Woudenberg

アムステルダム・コンセルヴァトリーでクラシック・ギターとジャズ・ギターを勉強し
1996年に卒業した。その後、様々なアンサンブルと共演する一方で、ソロ・コンサートや特に
多くのシアター作品で演奏してきた。
また彼は作曲とアレンジも行い、これまでにオランダ、フィンランド、日本を始め多くの地域の
フェスティバルや機関から、シアター作品、ギターアンサンブル、サキソフォーン四重奏曲など
様々な楽器のための委嘱を受けてきた。昨シーズンではピアノトリオPlay Again(ピアノ、
ヴァイオリン、クラリネット)を完成させた。精神分裂症schizophreniaについての劇場作品Vlieg!,
を作曲した。彼の作品はオランダの出版社ドネムスから出版されている。次のホームページで
彼の作品を聴く事ができる。 <http://www.rijndertvanwoudenberg.com>

竹山 愛



相川 瞳



南方 総子



花田 和加子



松本 卓似



安江 佐和子



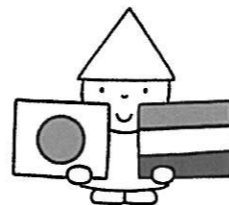
西久保 友広



江川 良子



アンサンブル・ノマド



日本オランダ年 2008-2009
www.nihonoranda.jp
© Mercis bv

財団法人 ローム ミュージック ファンデーション

野村国際文化財団

Ensemble Nomad

#34

アンサンブル ノマド

定期演奏会 第34回

オランダ紀行 2

きつと、あした

2009年3月2日 [月] 19時開演
六本木スーパーデラックス

助成
オランダ王国大使館
財団法人 ローム ミュージック ファンデーション
財団法人 野村国際文化財団

主催 アンサンブル・ノマド

PROGRAM

□ 第1部 □

ヤーコプTV (ヤーコプ・テル・フェルトハウス) [1951-]:
リップスティック (1998) フルート+サウンドトラック

Jacob Ter Veldhuis [1951-]: Lipstick (1998) fl&soundtrack
Flute 木ノ脇道元 Dogen Kinowaki 音響 有馬純寿 Sumihisa Arima

木ノ脇道元 [1969-]: パパロッチー・ナルコレプシー (2009改訂)
Dogen Kinowaki [1969-]: Paparotti Narcolepsy (2009edition)
Flute 木ノ脇道元 Dogen Kinowaki / 竹山愛 Ai Takeyama Vo 中川統雄 Norio Nakagawa

ヤーコプTV [1951-]: ビリー (2003) アルト・サクセス+サウンドトラック
Jacob Ter Veldhuis [1951-]: Billie (2003) alto sax&soundtrack
Alto sax 大石将紀 Masanori Oishi 音響 有馬純寿 Sumihisa Arima

中川統雄 [1969-]: Perfect imperfect world (2009)
Norio Nakagawa [1969-]: Perfect imperfect world (2009)
Flute 木ノ脇道元 Dogen Kinowaki / 竹山愛 Ai Takeyama Violin 甲斐史子 Fumiko Kai
Contrabass 佐藤洋嗣 Yoji Sato Percussion 相川瞳 Hitomi Aikawa
Piano 稲垣聡 Satoshi Inagaki / 中川賢一 Kenichi Nakagawa

— 休憩 Intermission —

□ 第2部 □

レインダート・ファン・ヴァウデンベルグ
オペラ『きっと、あした』 原作 レナータ・ドレスタイン(2009)より 世界初演
Rijndert van Woudenberg : Opera "Maybe Tomorrow"
Libretto by Renate Dorrestein(2009) World premiere

Dance 鈴木明 Aki Suzuki Soprano 吉川真澄 Masumi Yoshikawa
1st Guitar ロディー・ファン・ヘマート Rody van Gemert
2nd Guitar アレキサンダー・オイグスター Alexander Eugster
Flute 竹山愛 Ai Takeyama Oboe/E-Horn 南方総子 Fusako Nanpou
Clarinet 菊地秀夫 Hideo Kikuchi 1st Violin 野口千代光 Chiyoko Noguchi
2nd Violin 花田和加子 Wakako Hanada Viola 甲斐史子 Fumiko Kai
Cello 松本卓以 Takui Matsumoto Contrabass 佐藤洋嗣 Yoji Sato
Percussion 安江佐和子 Sawako Yasue Vibraphone 西久保友広 Tomohiro Nishikubo
Conductor 佐藤紀雄 Norio Sato

— 休憩 Intermission —

□ 第3部 □

ルイ・アンドリーゼン [1939-]: ホケトゥス (1976)
Louis Andriessen [1939-]: Hoketus (1976)
グループ1 | Pan flute 木ノ脇道元 Dogen Kinowaki Alto sax 大石将紀 Masanori Oishi
Piano 稲垣聡 Satoshi Inagaki Percussion 相川瞳 Hitomi Aikawa
Bass / guitar 佐藤洋嗣 Yoji Sato
グループ2 | Pan flute 竹山愛 Ai Takeyama Alto sax 江川良子 Ryouko Egawa
Piano 中川賢一 Kenichi Nakagawa Percussion 安江佐和子 Sawako Yasue
Bass / guitar 佐藤紀雄 Norio Sato

音響 | 有馬純寿

DTPデザイン | 岩井亜希子

COMMENT

■ 第1部 ■

ヤーコプTV [1951-]: リップスティック (1998) フルート+サウンドトラック
年に100回以上も演奏されている現代の流行作曲家の筆頭であるヤーコプTVの音楽は、どれもはつらつとした活気に漲っている。世界で起こっている状況に無関心でいられないこの作曲家はそれらに素早く反応し、かかわりを、表現者として最良のかかわりを示そうとつとめる。その表現の対象にされるのはもっとも身近な石鹸から、世界をひっくり返すような事件まで、自分が世界の一部であり、聴く人びとにも無関心を許さない激しい態度に貫かれている。そして今日初めて演奏されるのは、「リップスティック口紅」。

木ノ脇道元 [1969-]: パパロッチー・ナルコレプシー (2009改訂)
この曲は木ノ脇が中川統雄、フルート竹山愛、打楽器相川瞳らで活動しているユニット《コックローチ・イーター》http://www.myspace.com/cockroachheaterによって演奏されている。すでにタイトルからして我々を挑発しているように見える音楽の中身には、一体どんな内容が、さらに仕掛けられているのだろうか?
注:ナルコレプシー=嗜眠(しみん)発作
高熱や重症のため、外界の刺激に感じられなくなり眠ったような状態になること

ヤーコプTV [1951-]: ビリー (2003) アルト・サクセス+サウンドトラック
タイトルはジャズ史上最高の歌手といわれるレディ・ディことビリー・ホリディのことである。1915年に生れたビリー・ホリディは人種差別や、麻薬・アルコール依存症と闘う壮絶な人生を送ったが、一瞬にしてその場の空気を変えてしまう。情感豊かな歌声で、他に並ぶものがない特別な存在であり続けている。

中川統雄 [1969-]: Perfect imperfect world (2009)
http://www.myspace.com/vairocana
完全な不完全世界?不完全世界の完全?この原稿を書いている今に至って未だ曲の姿が不完全なこの作品だが、中川の新作に接するとき覚える妖しくも怪しい期待感に今回も胸の高まりを覚えることにおいてはいつもと変わらない。オランダの文化・風俗に深い関心を寄せてきた中川は、このオランダ・プログラムのためにコックローチ・イーターにノマドのメンバーを加えた特別編成のために作曲してくれた。いつの日か、中川や木ノ脇の作品をノマドがアムステルダムで演奏する日を、一同夢見ている。

■ 第2部 ■

レインダート・ファン・ヴァウデンベルグ
オペラ『きっと、あした』原作レナータ・ドレスタイン(2009)より 世界初演

- 1:序曲 Overture
- 2:第一の手紙 First letter
- 3:郵便配達員 Postman 1
- 4:第二の手紙 Second letter
- 5:第三の手紙 Third letter
- 4:第四の手紙 Fourth letter
- 5:郵便配達員 Postman 2
- 6:再現部 Reprise

10年間手紙の配達をしなかったドイツの郵便配達員の実際にあった話をもとにオランダの作家レナータ・ドレスタインがこの今回のオペラのための台本を作成した。その郵便配達員は配達すべき郵便物を、なぜか、10年間ものあいだ自宅に隠し続けた。小さな町の人びとはいつか返ってこない返事を待ちながら様々な憶測にゆれる。小さなコミュニティーに暮す人々の貴重なつながりが一人の郵便配達員の不可解な行為によって遮断される。「きっと、あした」と希望をいだきながら生活するこの町で起こった不思議な事件の顛末は、このオペラの完成のときに明かされる。のだろうか?

■ 第3部 ■

ルイ・アンドリーゼン [1939-]: ホケトゥス (1976)
1939年オランダのユトレヒトの音楽一家に生まれた。父ヘンドリックスは教会オルガニストとしてバツハの音楽に惹かれると同時に、ルーセル、デュバルク、ショーソンなど新しい音楽の魅力を子供達に伝えた。伝統的なバロック音楽と同時代の世界中の音楽に等しく囲まれて育った環境が、その後のルイ・アンドリーゼンの和声に聴かれる独特の渋い音色と強固な形式感を生み出したと言える。映画監督でオペラ脚本家ピーター・グリーンナウェイと共作したビデオ作品「人間、音楽、モーツァルトのM」とオペラ「フェルメールへの手紙」は大きな話題となった。題名のホケトゥスは、13世紀頃のパリの教会で行われていた合唱の形式で、一つの旋律を数人の歌手が音を受け渡ししながら歌う(ハンドベルのアンサンブルのように)ことで、この曲では離れた二つのグループの間で常に交互に音を投げ合うところからこの題名が付けられている。

解説 | 佐藤紀雄

PROFILE

木ノ脇道元 Dogen Kinowaki



フルートを武田又彦、金昌国、細川順三の各氏に師事。現代音楽の演奏からキャリアをスタートさせ、意欲的なコンセプトによるリサイタル、多数のオーケストラとの共演などの実績により出光音楽賞、アリオン音楽賞奨励賞を受賞。最近では作り手の領域に触手を伸ばし、コンピュータを使った音楽制作や、自作自演中心のフルートアンサンブル「NOZZLES」を主宰するなど、フルートの更なる可能性を模索し「息」の沃野を切り拓く活動を展開中である。ジバンチ・プロダクツよりCD「blower」「不在の花」をリリース。アンサンブル・ノマドメンバー。東京芸術大学非常勤講師。

大石将紀 Masanori Oishi



東京芸術大学卒業。2001年同大学大学院修士課程修了後、同年9月に渡仏しパリ国立高等音楽院に入学。サクソフォン科、室内楽科、即興演奏科を全て最優秀の成績で卒業後、さらに同音楽院第3課程室内楽科に進み2007年に修了。2002年から2004年まで文化庁派遣芸術家海外研修員。2008年3月に日本に帰国後、東京オペラシティ財団主催の「B→C100」に出演。www.m-oishi.com

鈴木明 Aki Suzuki



ダンス・コレオグラファー、脚本・監督。国際交流基金人物交流派遣を機に、2000年よりフィンランド在住。子供のころから、日舞、バレエ、ジャズ・ダンス、舞踏のキャリアを経て、現在の独自のスタイルへ開拓発展中。フィンランドでは演劇、音楽、ビジュアル・アートとのコラボレーション多数。国・世代を超えて、楽しめる作品を創りたい。代表作はフィンランド国立劇場「誘ふ水」、アレキサンテリ・シアター「Zambeziザンベジ」、「エストニアン・バラード」(エストニア政府文化賞受賞)、「祭り」など。

© Photos by Leena Klemela

吉川真澄 Masumi Yoshikawa



岸和田生まれ。桐朋学園大学研究科修了。これまでに田中万美子、松本美和子、木村俊光、平山美智子の各氏に師事。E.アメリック、K.ラーキー、S.グスタフ、J.デムス各氏のマスタークラスを受講。これまでに「魔笛」パバゲーナ役、「チェネレントラ」クロリダ役、「口短調ミサ」浄土のソプラノソロ、「高橋アキビアノドラマティック2002」「アンサンブル・ノマド定期演奏会」「サントリー・サマーフェスティバル2007」等に出演。歌曲、オペラ、現代音楽の幅広い分野で活躍中。平成16年度文化庁国内芸術インターシッブ研修生。第7回松方ホール音楽大賞受賞。

ロディー・ファン・ヘマート Rody van Gemert



1972年オランダのハーレムに生れた。ハーレムの協会で最初の音楽教育を得たのち、アムステルダムのスウェーリンク音楽院でギターを勉強。その後もゾーラン・ドゥーキッチにも師事し、博士号取得のためヘルシンキのシペリウス・アカデミーに移り現在に至る。2005年には笹川財団の助成により広島のエリザベト音楽大学で佐藤紀雄に師事。ヘマートは特にアンサンブルの分野において優れた活動を繰り返しており、フィンランドやオランダのアンサンブルと様々な共演を行ってきた。またヘルシンキ・ギター・デュオの演奏も活発に行っている。多くの作曲家が彼のためにギター曲を作曲している。

アレキサンダー・オイグスター Alexander Eugster



1978年、スイス、アッペンツェル生まれ。8歳頃から彼の故郷であるアッペンツェルの伝統楽器、ハックプレット(ツインパロムに似た打楽器)奏者としてスイス各地の演奏会に参加する。少年時代より彼のクラシック音楽に対する興味は増してゆき、15歳より本格的にギターへのレッスンを受け始める。1999年よりバーゼル音楽大学大学院にてフルター・ファイブリ教授のもとクラシックギターを学ぶ。同大学院卒業後、彼の興味の対象である現代音楽の解釈と演奏法を追求すべくベルン芸術大学大学院へ進み、エレナ・カソリ教授のもとに研鑽を積む。2006年夏の同大学院修了リサイタルにおいてはアジアの現代音楽をテーマとしたプログラムを演奏、好評を博す。その他ヨーロッパ各地において主にアンサンブルを中心に演奏活動を行う。2007年4月より文部省奨学生として来日、日本語を習得。現在、エリザベト音楽大学大学院にて佐藤紀雄教授の指導のもと、日本ひいてはアジアの現代音楽のさらなる理解に向け邁進している。